

WES 3003 : 1995

WES

低温用圧延鋼板判定基準

Evaluation Criterion of Rolled Steels for
Low Temperature Application

WES 3003 : 1995

平成 7 年 11 月 1 日 改正

一般社団法人 日本溶接協会

The Japan Welding Engineering Society

WES 3003 (低温用圧延鋼板判定基準)

改正原案作成委員会 構成表

	氏 名	所 属
(主 査)	町 田 進	東京大学工学部船舶工学科
	中 野 善 文	川崎製鉄株式会社技術研究所厚板研究室
	梅 原 望	日本鋼管株式会社技術開発本部標準室
	小野塚 正 一	石川島播磨重工業株式会社構造強度部
	板 垣 浩	横浜国立大学工学部船舶海洋工学科
	小 倉 信 和	横浜国立大学工学部エネルギー材料研究施設
	小 金 田 重 裕	東京大学工学部船舶工学科
	吉 成 仁 志	東京大学工学部船舶工学科
	青 木 真 一	川崎製鉄株式会社製鋼・鋼材技術部
	大 浦 基 宏	川崎製鉄株式会社製鋼・鋼材技術部
	石 沢 隆 夫	株式会社神戸製鋼所鉄鋼生産本部鋼板技術部
	笠 松 裕	株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所鋼板開発部
	大 野 章	新日本製鉄株式会社技術本部技術企画管理部
	三 村 宏	新日本製鉄株式会社製品技術研究所第2研究室
	有 持 和 茂	住友金属工業株式会社中央技術研究所溶接研究室
	三 浦 一 良	住友金属工業株式会社第2製品技術部
	浦 辺 浪 夫	日本鋼管株式会社技術研究所強度研究室
	田 中 明 広	日本鋼管株式会社鉄鋼製品技術本部
	小山内 真 二	株式会社日本製鋼所開発技術部
	島 崎 正 英	株式会社日本製鋼所室蘭製作所研究部鋼板研究室
	松 村 裕 之	川崎重工業株式会社技術研究所溶接研究室
	矢 貫 徹	東京芝浦電機株式会社重電技術研究所金属技術グループ
	中 川 喜 矩	トヨーカネツ株式会社タンク事業部溶接研究室
	正 岡 功	株式会社日立製作所日立研究所 MR センター
	豊 貞 雅 宏	日立造船株式会社技術研究所強度研究室
	岸 本 宏 次	三井造船株式会社千葉研究所溶接研究室
	佐 藤 正 信	三菱重工業株式会社技術本部高砂研究所強度研究室
	矢 島 浩	三菱重工業株式会社技術本部長崎研究所船体強度研究室
(事 務 局)	上 原 昇	社団法人日本溶接協会

協会規格を他書へ転載する場合のご注意

本規格の内容の一部又は全部を他書に転載する場合には、当協会の許諾を得るか、又は本規格からの転載であることを明示してください。このような処置がとられないと、著作権及び出版権の侵害となります。

制定年月日 : 昭和 36 年 3 月 1 日
 改正年月日 : 昭和 58 年 12 月 1 日, 平成 2 年 12 月 1 日, 平成 7 年 11 月 1 日
 改正原案作成委員会 : 社団法人日本溶接協会 鉄鋼部会 技術委員会 WR 委員会
 審議委員会 : 社団法人日本溶接協会 規格委員会 (委員長: 稲垣道夫)

この規格についてのご意見又はご質問は、一般社団法人日本溶接協会業務部 (〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 4-20) にご連絡ください。

日本溶接協会規格

低温用圧延鋼板判定基準

Evaluation Criterion of Rolled Steels for
Low Temperature Application

1. 適用範囲 本判定基準は、溶接構造物に用いられる降伏点又は耐力の保証値が 685N/mm^2 以下の圧延鋼板（以下、鋼板という。）で、板厚が 6mm 以上 100mm 以下、最低使用温度が 0°C 以下 -196°C 以上のものを対象とし、社団法人日本溶接協会において低温用圧延鋼板の鋼種認定を受けた鋼種に適用する。

備考 この規格の引用規格を、次に示す。

JIS Z 2201 金属材料引張試験片

JIS Z 2202 金属材料衝撃試験片

JIS Z 8401 数値の丸め方

2. 鋼板の分類及び記号

2.1 鋼板の特性 鋼板は、その特性により G 種と A 種に分類する。G 種（記号 G）は、一般的に脆性破壊を考慮する溶接構造物に使用する。また、A 種（記号 A）は、脆性破壊が特に問題となる特殊な構造物、又は構造物の特定な場所に使用する。

2.2 板厚及び使用温度区分 鋼板は、板厚及び使用される溶接構造物の最低使用温度によって、表 1 及び表 2 のとおり区分する。

表 1 板厚区分

呼称板厚 (mm)	区分板厚記号	呼称板厚 (mm)	区分板厚記号
6 以上 13 以下	I	32 こえ 40 以下	V
13 こえ 20 以下	II	40 こえ 50 以下	VI
20 こえ 26 以下	III	50 こえ 70 以下	VII
26 こえ 32 以下	IV	70 こえ 100 以下	VIII

表 2 最低使用温度区分

最低使用温度($^\circ\text{C}$)	区分温度記号	最低使用温度($^\circ\text{C}$)	区分温度記号
0	0	-110 以上-100 未満	-110
-10 以上 0 未満	-10	-120 以上-110 未満	-120
-20 以上-10 未満	-20	-130 以上-120 未満	-130
-30 以上-20 未満	-30	-140 以上-130 未満	-140
-40 以上-30 未満	-40	-150 以上-140 未満	-150
-50 以上-40 未満	-50	-160 以上-150 未満	-160
-60 以上-50 未満	-60	-170 以上-160 未満	-170
-70 以上-60 未満	-70	-180 以上-170 未満	-180
-80 以上-70 未満	-80	-190 以上-180 未満	-190
-90 以上-80 未満	-90		
-100 以上-90 未満	-100	-196 以上-190 未満	-196